

# クラス担任のための Career Guidance

2016 >> VOL.32

「キャリアガイダンス 特別編集」



## 保護者との関係

保護者会を実施する学校も多いこの時期、保護者との関係づくりに不安を抱える先生も少なくないはず。そこで今回は、保護者との信頼関係を築くヒントをご紹介します。

取材文/清水由佳ライター・キャリアカウンセラー

# 積極的に情報開示し 「攻めの保護者対応」を心がける

## 積極的に情報開示し

## 「攻めの保護者対応」を心がける

「教師のための失敗しない保護者対応の鉄則」の編著者で、現在早稲田大学教育・総合科学術院の河村茂雄教授によると、保護者の信頼を獲得していくには順番があるという。

「第一歩は、まず教師自身がどういう人かをわかってもらうこと。自己開示によってある程度の人となりを伝えることも必要です。どういった教育ビジョンをもっている、それに基づいてどんなクラス・授業をしていることと考えているか具体的な内容を、学級通信などでしっかり伝えることです」(河村先生)

「状況がわからないから急にクレームとして飛び込んでくる場合も少なくありません。こちらから積極的に情報開示する『攻めの保護者対応』が重要です」(河村先生)

河村先生

## 日頃の生徒指導が保護者との信頼関係につながる

とはいえ、そもそも学級通信が生徒の手から保護者に渡っていないか、保護者自身が教師の話に耳を傾けてくれない、といった悩みもある。進路多様校での教師経験が長く、現在は「教育困難校の学級経営」が研究テーマの会津大学・河間澤勇人先生は、その体



会津大学 文化研究センター上級准教授 河間澤勇人先生  
早稲田大学 教育・総合科学術院教授 河村茂雄先生  
岩手県立高校の教諭を長年務め、困難校でのクラス運営などで手腕を発揮。早稲田大学大学院博士課程退学。現在は、「困難校の学級経営」をテーマに研究を行う。



「教師のための失敗しない保護者対応の鉄則」  
河村茂雄編著 学陽書房  
6人の現役教師とともに執筆している保護者対応のケーススタディ満載の書。保護者のタイプの別対応策や、教師が実際に出会ったケースへの対応策など、具体的な事例とともに、保護者対応はどのようにしていけばいいかを説く。

## ■ 教師のタイプ別 苦手保護者の傾向と対策

河村先生は、多くの教師の相談を受ける中で、同じタイプの先生が同じタイプの保護者対応で苦勞していることを実感したという。「誰にでも苦手な人がいます。しかし、苦手な人もそれぞれにわかかれるようになることが大事。そのためのヒントをご紹介します」

### ■ きびきびと一斉指導を得意とする教師の場合

学習面や生活面でやるべきこと、努力すべき内容を明確にして、生徒がけじめをつけて学校生活を送ることが大事だと考え、自らも先頭に立っていきタイプ。物事を明確にテキパキと進め、指導力を発揮する教師。

- <保護者の苦手傾向>
- 被害者意識が強い保護者
  - 子どもの非を認めようとしていない保護者
  - 大人になりきれない保護者
- 教師の取り組みに無関心だったり、冷ややかに見ていたり、ネガティブにとらえられていたり。特に、ネガティブにとらえている保護者の場合、教育に関する価値観が異なることに原因がある場合も多く、そこから感情的な行き違いが生じる可能性も。

<対策>  
目の前の問題だけでなく、そもそもの子どもの教育という大きな観点で、ゆっくり話し合う場を設けることも大事。定期的な保護者との個人面談などを利用して、一方的に教師が「あるべき」を伝えるのではなく、保護者の思いをじっくり「聴く」時間を設けることからスタートを。

### ■ 温和で穏やかな個別対応を得意とする教師の場合

声を荒げて叱ることが少なく、一人ひとりに諭すように声をかける細やかな対応ができるタイプ。その分、人に気がつかず、繊細な面をもち、強く指導することを苦手とする傾向がある教師。

- <保護者の苦手傾向>
- 教師を見下すように接してくる保護者
  - 感情的に苦情を言う保護者
- このようなタイプの保護者から、頻繁にクレームを受けたり、個人的な要求を求められることが多く、その対応に苦慮してしまう傾向がある。穏やかに保護者の言い分を聞くことが多いが、保護者が自分の言い分をすべて受け入れてくれたと思いき、さらに要求がエスカレートする傾向も。また、「仕事が忙しく、かつ子どもの教育にも熱心」といった保護者からは、物足りなさを感じられてしまうことも。

<対策>  
受け入れられない個人的な要求に関しては、「何々はこう対応するが、何々はできません」と、具体的に対応策を説明する必要がある。また、全体に対して、ある程度のデータを用的生徒たちの成果と課題を、定期的に説明するような取り組みも必要。

## ■ 保護者会 ワンポイント・アドバイス

高校では保護者同士のつながりが薄くなるため、保護者会を情報交換の場とすることで、「保護者会に出るといいことがある」と感じてもらえ、教師への信頼にもつながりやすい。そのため、「保護者会は計画的に運営することが大事」と河村先生。

- ポイント①** 教師がリーダーシップをとる  
紋切型の教育論ではなく、教師自身が少し構えをとって、多少の失敗談なども交え語るなど本音を語り、リーダーシップをとる。
- ポイント②** 話し合うテーマを事前に通知  
他の保護者からの意見や、生徒の状態など、話し合いをしたいテーマについて事前に学級通信などで告知し、関心を高めておく。
- ポイント③** 小グループの構成をリード  
保護者同士で話し合う場づくりのため、4人ずつくらいの少人数に分ける。顔見知り同士で固まらないように、生徒の席順やランダムに組めるような構成づくりをリードする。
- ポイント④** 短時間に多くの交流ができるように  
各グループで出た話題を全体にも短く発表してもらい、その中のポイントを全体でさらに話し合うなど、短い時間で、多くの保護者が話をし合う工夫を。

## 事務的にこなさず「人と人」の関係を意識する

「一方、進学校の場合は、進路指導の場面などで偏差値だけを基準に受験校を事務的に指示されたという不満も生徒や保護者からはよく聞かれます。やはり、生徒や保護者が何を思っているのか。思いや考えをまず、聴く姿勢が大切です」(河村先生)

さらに、若手教師からの悩み相談

「教育困難校の場合は、生徒にも保護者にも、まずは教師が敵ではなく味方なんだということを理解してもらうことが大事です。そのために私は、最初にしっかりと、契約を結びようにしていました。校則の説明から始め、明確に『こういうときは、こういう対応をします』と伝え、保護者にも契約書としてサインをしてもらった。それ

「結局、いかに日頃の生徒指導を頑張るかが、保護者との信頼関係につながるんですね」(河間澤先生)

も受け入れられるとは限りません。よくなるために次に何をしていくかを一緒に考える。そういう面談を心がけていくことが大事です」(河村先生)

河間澤先生は、そんなコミュニケーションとして、PTAなど保護者主導の集まりに出ることも大事だという。

「岩手県立高校時代には、地区でのPTAの集まりに呼ばれたら必ず行

つて話をし、懇親会にも参加しました。最近の若手教師は、そういう集まりへの参加を避ける傾向がありますが、実はこういう場が保護者との信頼関係を深めるには重要だったりします」(河間澤先生)

教師自身が垣根を作らず、保護者とのかわりを大切にする姿勢が、互いを受け入れる糸口になりそうです。

リウナビ進学 高校生の主体的な進路選択を応援する先生のための

# Career Guidance

キャリアガイダンス 進路指導・キャリア教育の専門誌

【最新号】Vol.412 2016年5月発行

■特集  
今、なぜ? どう取り組む?  
教育改革、その先の姿は…

- 今求められる高校像とは?  
技術による社会貢献を目指し、新境地を開く高校が開校  
京都工芸高校(京都・市立)
- 次期学習指導要領が目指す方向性  
文部科学省初等中等教育局 教育課程課教育課程企画室
- OECDが考える EDUCATION 2030  
OECD教育局 シニア政策アナリスト 田熊美保

■連載  
● アクティブラーニング型授業への挑戦  
中村中学・高校(東京・私立)
- これからの推薦・AO入試指導 Season2  
第6回「2016年度入試から見る これから問われる力」

「キャリアガイダンス」誌は全国の高校に贈呈しています(校長、教頭、副校長、進路指導主事先生宛に郵送)バックナンバーの記事はすべてWEBサイトで閲覧いただけます

http://souken.shingakunet.com/career\_g/